

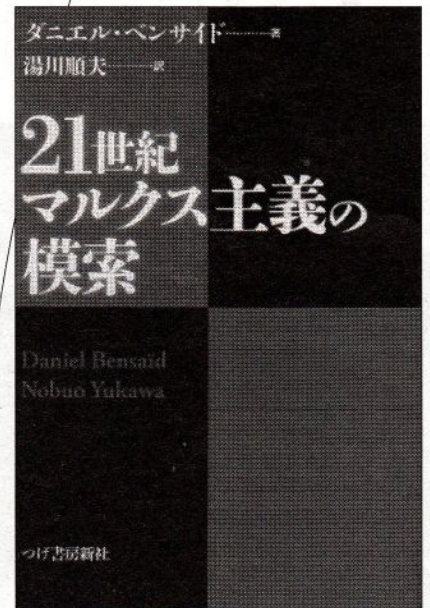
マルクス主義の模索

政治闘争家でもあった 哲学者ベンサイドの遺産

中村富美子

なかむら ふみこ / ジャーナリスト

週刊金曜日
11 (H23) . 12. 16号



『21世紀マルクス主義の模索』
ダニエル・ベンサイド=著 湯川順夫=訳 つげ書房新社
3990円 ISBN978-4-8068-0625-7

ダ

ニエル・ベンサイドは
フランスきつてのマル

私も何度かゼミに参加し、世界
を精緻に分析する哲学の有効性
を興奮して味わったものだ。こ

要素が盛り込まれるべきか。
戦略の思想家ベンサイドが示
すのは、分かち合いと平等の共

述した当時、独裁とは「専制」
と対立した啓蒙主義の語彙であ
り、二〇世紀の軍事独裁や官僚

な分業と不平等があり、政治の
職業化、知の私有化、社会関係
の複雑さに結びつく。だから現

クス研究者だが、トロツキスト
の活動家であり、「左の左」を
行く政党の理論家であり、政治
参加の伝統をもつフランス知識
人の中でも特異な存在だった。

載されたテキストや発言を、マ
ルクス主義の今日的意義を探る
観点から編みなおしたものだ。

略奪と世界の私有化に対抗する
サービスの無料化。その実現の
ための所有関係の根本的変革だ。

との関係、賃金収入の形態と水
準、社会的分業における地位を
考えるとき、現代の三次産業の

常にも複数でマルクス主義を語
ったベンサイドは、経済学、社
会学、ジェンダー研究、ポスト

一九六八年五月革命の牽引者
とは思えぬほどシャイで控えめ
で、昨年、六三歳の若さで亡く
なるまで、常に労働者とともに

スターリン主義の悪しき経験
を経て、マルクス、エンゲルス
の共産主義思想の継承はどのよ

「マルクスなしに未来はない。
マルクスとともにマルクスに反
対し、マルクスをのりこえる。

大多数の賃金労働者（多くは女
性）こそマルクスがこの言葉に
与えた意味でのプロレタリアな

他の批判的思考の潮流と対話し
前進しようとした。そして共産
主義の平等の語彙を、個性なき

あったから、デリダやフーコー
やドゥルーズや、二〇世紀に名
を遺すフランスの哲人たちのパ
ンテオンに加わることは本人自
身が居心地悪く感じただろう。

倒した九〇年代以降、「資本主
義の勝利」が人間に決定的な敗
北をもたらしている未曾有の危

が、スターリンの恐怖政治と共
産主義一般を同一視するような
者たちは知っているだろうか。

官僚的野蠻という負の遺産に
ついては、ベンサイドは思想自
体の誤謬ではなく社会現象とみ

「叫びと抵抗の多様性を解き放
て」。亡き哲学者の声が、いま
地球上を覆う憤怒の叫びに重な

持たざる者の側で世界の変革
をめざす思想と活動は、そのま
ま人柄の魅力に重なっていた。
その人柄に触れる機会を得て、

想としてあるには、どのような

本書が詳らかにするように、プ
ロレタリア独裁とマルクスが著

なす。根源には社会的・技術的

地球を覆う憤怒の叫びに重な
って聞こえる。